

令和6年度新規・重点事業説明資料

(農政水産部)

事業名	(みやざき農水産業グリーン化推進事業)	新規・改善・ 既定	課名	水産政策課
	養殖グリーン成長戦略推進事業	国庫 ・ 県単		
<p>1 事業の目的・背景</p> <p>国の「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、本県養殖業のグリーン化を促進するため、天然資源や漁場環境への負荷を軽減する持続可能な養殖業の構築を支援する。</p> <p>2 事業の概要</p> <p>(1) 予算額 10,182千円</p> <p>(2) 財源 国庫：4,992千円 一般財源：5,190千円</p> <p>(3) 事業期間 令和4年度～令和6年度</p> <p>(4) 事業主体 養殖業者等</p> <p>(5) 事業内容</p> <p>① 養殖グリーン成長戦略推進事業（国1／2、県1／2以内） 9,985千円 人工種苗やE P飼料への転換、藻類等養殖の導入など、養殖業者が取り組む持続可能な養殖業の実証を支援</p> <p>② 県推進事務費 197千円</p> <p>3 事業効果</p> <p>持続可能な養殖業の構築に向けた養殖業者等の一体的なグリーン化の取組を支援することにより、本県養殖業の生産力向上と持続性の両立による成長産業化が図られる。</p>				

養殖グリーン成長戦略推進事業

1. 背景

我が国の新戦略・県の長期計画

みどりの食料システム戦略

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を目指す

[養殖業]

- 人工種苗による完全養殖への転換
- 天然資源に依存しない飼料への転換

[CO₂吸収・固定]

- 藻類によるCO₂吸収の推進

第六次水産業・漁村振興長期計画

環境に配慮した責任ある水産業の推進

養殖業の現状は・・・

種苗

ブリ類は約90%が天然種苗であり、カンパチ人工種苗の生産技術は確立されているが利用は少なく、天然資源への負荷が大きい

飼料

生餌の配合割合が高い餌を使用する経営体が多く、天然資源への負荷や溶け出した餌の残渣による漁場環境への負荷が大きい

多くの養殖業では天然資源や漁場環境への負荷が大きい

2. 事業内容

〈養殖業者等のグリーン化に資する取組を支援〉



〈人工種苗へ転換〉

人工種苗への転換による新たな飼育の実証を支援



トータルパッケージで支援

※魚粉や小麦粉等を高温高圧加工した固形飼料

〈E P 飼料へ転換〉

E P 飼料※による飼育の実証を支援

〈ブルーカーボンの取組〉

CO₂を吸収するワカメ養殖等の導入を支援



生餌主体



E P 主体



ワカメの養殖

3. 見込まれる成果

生産力向上と持続性の両立による本県養殖業の成長産業化を実現